

校長室より

第9号

「天空高き」



平成22年10月21日

英語暗唱大会を終えて！—感想あれこれ—

英語暗唱大会は今年で第41回目だと聞きました。私が在籍していたときにもあったと思いますが、学内予選会はありませんでした。多分、3年生を中心に先生方が選抜されて岩国地区の予選大会に出場していたと思います。残念ながら私が選ばれるということは、ありませんでした。

今回、2年生から始まって1年生、そして最後は3年生という順番でしたが、よく考えられた発表順だと思いました。2年生の暗唱を聴きましたが、正直なところ「なかなかやるな。」と思いました。1年生は1学期に比べると格段の進歩で、長い文章を良く暗唱していました。3年生になると「流石だな。」と思わず感心してしまいました。運動会の際にも素晴らしい応援合戦を披露してくれましたが、1、2年生に良いお手本を示してくれました。長い伝統に培われてきた暗唱大会です。次年度は長年の伝統、プラスさらに進化したかたちで開催してもらいたいと思います。

今回各学年で3名ずつ、代表選手が選ばれました。若鷹祭では今回の経験をもとにさらに各人磨きを掛けて決勝大会に臨んでもらいたいと思います。また、生徒の皆さんも聴く姿勢のレベルが発表者のレベルと連動します。更なるマナーのアップをお願いします。

中六講演会について

恒例の中六講演会を10月15日（金）の5・6時限に体育館で開催します。講師は昭和54年に本校を卒業された高岡医師です。高岡医師は水俣市で数千人の水俣病患者を診察しておられ



ます。現在は、特定医療法人芳和会神経内科リハビリテーション協立クリニック 所長として活躍されています。どんなお話を聞くことができるのか、今から楽しみです。

<講演題目>

「水俣病を追求した25年間」

<講演内容>

水俣病は、チッソが工場から排出したメチル水銀に汚染された魚介類を食べた不知火海沿岸の住民に起こった病気です。チッソは1932年（昭和7年）から、繊維の原料となるアセトアルデヒドを生産しはじめ、その生産過程で生じたメチル水銀を不知火海に流しつづけました。1950年代前半から魚介類が激減するなど海や動物の異変が始まり、1956年（昭和31年）に重症の症状を示す患者が公式に確認されました。

発生当時は、水俣病の原因がわかりませんでした。1959年（昭和34年）末になり、メチル水銀が原因ということが判明します。しかし、チッソは生産を中止せず排水を海に流し続け、政府も黙認、水俣病の原因究明に関わった医師たちも水俣病の診療や研究をじゅうぶんに継続せず、被害はさらに拡大しました。1968年（昭和43年）にチッソがアセトアルデヒドの生産を終了したのち、初めて政府は水俣病の原因をチッソの排出したメチル水銀と認めました。

不知火海沿岸の人口は約50万人といわれていますが、その多くが36年間に流されたメチル水銀により、軽症から重症までさまざまな程度の健康影響を受けたと考えられます。しかし、数多くの患者や住民が診療を受けたり補償を受けたりすることなく、放置されてきました。

私は、このような困難な状況の中で、大学を卒業した1985年以降、長期にわたって水俣で診療をおこなってきました。そして、病院やクリニックのスタッフらと共に、水俣病の性質の拡がりを解明する研究をおこない、実際に患者の救済に結びつけてきました。

講演では、水俣病についての基本的な情報を紹介し、何故いまだに新たな水俣病患者がみだされているのかについて、医学的、社会的、心理的要因を明らかにします。そして、本来あるべき環境行政と医療・医学の姿について示していくと同時に、環境や経済など、深刻な問題に直面している私たちの将来に対して、私たち自身がどのような態度で臨んでいくべきなのか、みなさん自身で考えていただきたいと思います。

<キーワード>

水俣病、メチル水銀中毒

脳の機能と障害

医学研究の方法（臨床研究、疫学研究）、水俣病と差別

今日の言葉 たった一言が、人の心を傷つける。たった一言が、人の心を温める

中六講演会について

恒例の中六講演会を10月15日（金）の5・6時限に体育館で開催します。今回の講師は昭和54年に本校を卒業された高岡医師です。高岡医師は長年に亘り、水俣市で水俣病患者を診察しておられます。現在は、特定医療法人芳和会神経内科リハビリテーション協立クリニック 所長として活躍されています。どんなお話を聞くことができるのか、今から楽しみです。

<講演題目>

「水俣病を追求した25年間」

<講演内容>

水俣病は、チッソが工場から排出したメチル水銀に汚染された魚介類を食べた不知火海沿岸の住民に起こった病気です。チッソは1932年（昭和7年）から、繊維の原料となるアセトアルデヒドを生産しはじめ、その生産過程で生じたメチル水銀を不知火海に流しつづけました。1950年代前半から魚介類が激減するなど海や動物の異変が始まり、1956年（昭和31年）に重症の症状を示す患者が公式に確認されました。

発生当時は、水俣病の原因がわかりませんでした。1959年（昭和34年）末になり、メチル水銀が原因ということが判明します。しかし、チッソは生産を中止せず排水を海に流し続け、政府も黙認、水俣病の原因究明に関わった医師たちも水俣病の診療や研究をじゅうぶんに継続せず、被害はさらに拡大しました。1968年（昭和43年）にチッソがアセトアルデヒドの生産を終了したのち、初めて政府は水俣病の原因をチッソの排出したメチル水銀と認めました。

不知火海沿岸の人口は約50万人といわれていますが、その多くが36年間に流されたメチル水銀により、軽症から重症までさまざまな程度健康影響を受けたと考えられます。しかし、数多くの患者や住民が診療を受けたり補償を受けたりすることなく、放置されてきました。

私は、このような困難な状況の中で、大学を卒業した1985年以降、長期にわたって水俣で診療をおこなってきました。そして、病院やクリニックのスタッフらと共に、水俣病の性質の拡がりを解明する研究をおこない、実際に患者の救済に結びつけてきました。

講演では、水俣病についての基本的な情報を紹介し、何故いまだに新たな水俣病患者がみだされているのかについて、医学的、社会的、心理的要因を明らかにします。そして、本来あるべき環境行政と医療・医学の姿について示していくと同時に、環境や経済など、深刻な問題に直面している私たちの将来に対して、私たち自身がどのような態度で臨んでいくべきなのか、みなさん自身で考えていただきたいと思います。

<キーワード>

水俣病、メチル水銀中毒

脳の機能と障害

医学研究の方法（臨床研究、疫学研究）、水俣病と差別

講師プロフィール

高岡 滋（たかおか しげる）先生

1961年3月31日生（49歳）

<学歴>

1973年 旧周東町立高森小学校卒業

1976年 高水高等学校附属中学校卒業

1979年 高水高等学校六年制普通科卒業

1985年 山口大学医学部医学科卒業

1991年～93年 順天堂大学医学部（神経内科学）専攻生、無給助手

1993年～ 鹿児島大学大学院（神経内科学）部外研究生



<主な職歴>

1985年～ 医療法人芳和会くわみず病院 医員

1986年～ 医療法人芳和会水俣協立病院 医員

1991年～ 順天堂大学附属順天堂医院 医員

1993年～ 特定医療法人芳和会水俣協立病院 院長

2002年～ 特定医療法人芳和会神経内科リハビリテーション協立クリニック 所長

<主な所属学会>

日本内科学会、日本神経学会、日本神経治療学会、日本リハビリテーション医学会

日本精神神経学会、日本心理学会、日本心理臨床学会

<資格・専門医等>

日本内科学会・認定内科医、日本神経学会・専門医、日本リハビリテーション医学会・専門医、

日本医師会・認定産業医、日本精神神経学会・専門医、臨床心理士

連絡先メールアドレス：stakaoka@x.email.ne.jp

たった一言が、人の心を傷つける。たった一言が、人の心を温める

高水高等学校附属中学校

校長 前田 茂雄